

名取市の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

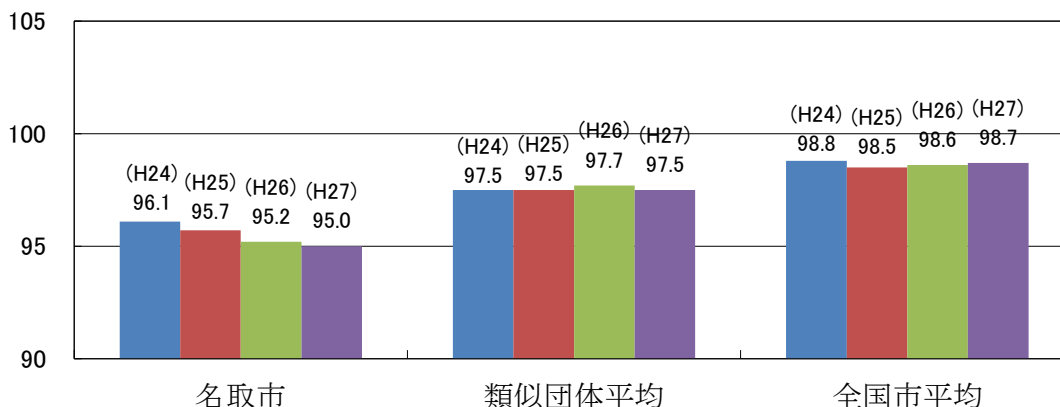
区分	住民基本台帳人口 (平成27年1月1日)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 25年度の人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
26年度	77,124	64,678,658	1,923,257	5,081,487	7.9	7.3

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)類似団体平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
	人	千円	千円	千円	千円	千円	千円
26年度	544	2,018,414	496,145	774,240	3,288,799	6,046	6,089

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
 2 職員数は平成26年4月1日現在の人数である。
 3 給与費については、任期付短時間勤務職員(再任用職員(短時間勤務))の給与費が含まれており、職員数には当該職員を含んでいない。

(3) ラスパイレス指数の状況(各年4月1日現在)



- ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数(構成)
 (注) 1 を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表(一)適用職員の俸給月額を100として計算した指数。
 2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。
 3 平成24年及び平成25年は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定・臨時特例法による給与減額措置がないとした場合の値である。

(4) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ、及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

①給料表の見直し [実施 未実施]

<給料表の改定実施時期> 平成27年4月1日

<内容> 一般行政職の給料表について、国の見直し内容を踏まえ、平均1.8%引下げ。激変緩和のため、3年間(平成30年3月31日まで)の経過措置(現給保障)を実施。
 他の給料表については、一般行政職給料表との均衡を踏まえて見直しを実施。

②地域手当の見直し

(支給割合)従来より、国基準3%に対して名取市においても3%を支給している。

③その他の見直し内容

管理職員特別勤務手当及び単身赴任手当について、国と同様に見直しを実施。
(平成27年4月1日実施)

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況 (平成27年4月1日現在)

① 一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
名取市	41.0 歳	298,613円	378,022円	330,691円
宮城県	42.3 歳	323,015円	402,407円	357,738円
国	43.5 歳	334,283円	—	408,996円
類似団体	41.3 歳	308,102円	401,021円	351,047円

②技能労務職

区 分	公 務 員					民 間			参 考
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国比較ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	A/B
名 取 市	51.2 歳	48人	315,917円	349,878円	338,363円	—	—	—	—
用務員	51.1 歳	26人	315,900円	347,127円	337,631円	用務員	54.6 歳	200,300円	1.73
宮城県	51.8 歳	204人	328,544円	371,143円	351,954円	—	—	—	—
国	50.2 歳	2,994人	289,141円	—	328,318円	—	—	—	—
類似団体	48.1 歳	47人	322,885円	385,501円	357,872円	—	—	—	—

区 分	参 考		
	年収ベース(試算値)の比較		
	公務員 (C)	民間 (D)	C/D
名 取 市	—	—	—
用務員	5,567,000円	2,774,400円	2.01

※民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している。(平成24年～平成26年の3ヶ年平均)

※技能労務職の職種と民間の職種の比較にあたり、年齢、業務内容雇用形態等の点において完全に一致しているものではない。

※年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては前年度に支給された
期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

③ 小・中学校(幼稚園教諭)教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
名取市	41.6 歳	312,400円	349,680円
宮城県	44.8 歳	380,905円	429,272円
国	—	—	—
類似団体	39.9 歳	305,078円	338,572円

- (注) 1 「平均給料月額」とは、平成27年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。
 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などの諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース(=時間外勤務手当等をおを除いたもの)で算出している。

(2) 職員の初任給の状況 (平成27年4月1日現在)

区 分		名取市	宮城県	国
一般行政職	大学卒	174,200円	180,800円	174,200円
	高校卒	142,100円	146,500円	142,100円
技能労務職	高校卒	139,500円	144,200円	—
	中学卒	123,900円	127,700円	—
教育職	大学卒	—	201,900円	—
	短大卒	154,800円	—	—

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況 (平成27年4月1日現在)

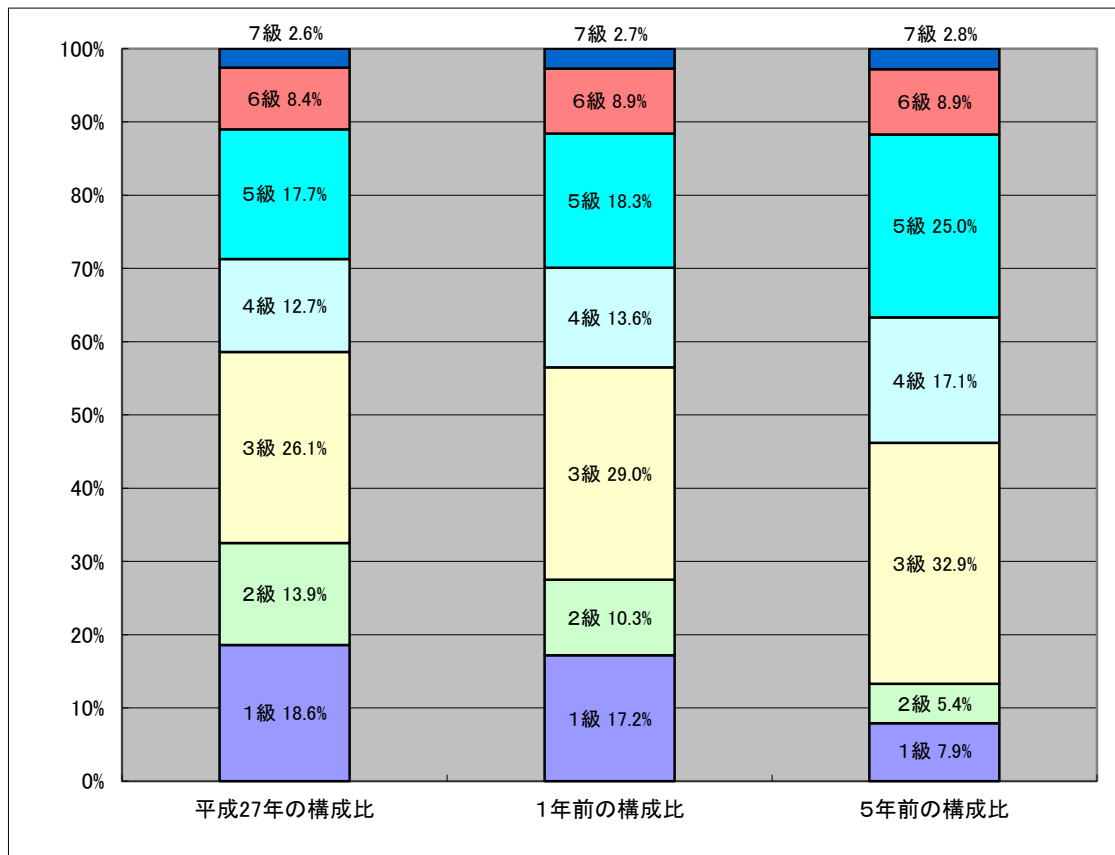
区分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一般行政職	大学卒	255,200円	300,207円	352,920円
	高校卒	206,800円	—	303,113円
技能労務職		—	—	301,073円

4 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数の状況（平成27年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
1 級	主事又は技師等の職務(主事、技師)	64人	18.6 %	137,600円	244,900円
2 級	高度の知識又は経験を必要とする業務を行う主事又は技師等の職務(主事、技師)	48人	13.9 %	187,700円	301,900円
3 級	係長の職務又は職務の複雑、困難及び責任の度がこれと同程度のもので市長が規則で定める職の職務(主査、技術主査、係長)	90人	26.1 %	223,900円	347,700円
4 級	課長補佐の職務又は職務の複雑、困難及び責任の度がこれと同程度のもので市長が規則で定める職の職務(主幹、技術主幹、課長補佐)	44人	12.7 %	258,300円	378,700円
5 級	相当高度の知識又は経験を必要とする業務を処理する課長補佐の職務又は職務の複雑、困難及び責任の度がこれと同程度のもので市長が規則で定める職の職務(課長補佐、技術補佐)	61人	17.7 %	285,000円	390,700円
6 級	次長、課長の職務又は職務の複雑、困難及び責任の度がこれと同程度のもので市長が規則で定める職の職務(参事、技術参事、課長、部次長)	29人	8.4 %	315,800円	407,900円
7 級	部長の職務又は職務の複雑、困難及び責任の度がこれと同程度のもので市長が規則で定める職の職務(部長)	9人	2.6 %	360,100円	442,600円

- (注) 1 名取市の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(注) 平成18年に9級制から7級制に変更している。(旧給料表の1級及び2級並びに4級及び5級をそれぞれ統合)

(2) 昇給への勤務成績の反映状況

- 1 勤務成績の評定の実施状況
毎年1月1日現在において、所属長からの報告により各職員の前1年間の勤務成績を判定し、昇給の号給数を決定している。
- 2 昇給への勤務成績の反映状況
所属長からの報告及び勤務状況等を考慮して、勤務成績を反映している。なお、今後も勤務実績の反映方法については、継続して検討していく。
- 3 その他
平成27年度から全職員を対象とした能力・業績に基づく人事評価を試行中である。

5 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

名 取 市	宮 城 県	国
1人当たり平均支給額(平成26年度) 1,405 千円	1人当たり平均支給額(平成26年度) 1,645 千円	1人当たり平均支給額(平成26年度) —
(平成26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.50 月分 (1.45) 月分 (0.70) 月分	(平成26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.40 月分 (1.45) 月分 (0.65) 月分	(平成26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.50 月分 (1.45) 月分 (0.70) 月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による 加算措置 (役職加算) 5~15 % (管理職加算) 0 %	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による 加算措置 (役職加算) 5~20 % (管理職加算) 15~25 %	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による 加算措置 (役職加算) 5~20 % (管理職加算) 10~25 %

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

【参考】 勤勉手当への勤務成績の反映状況(一般行政職)

- 1 勤務成績の評定の実施状況
6月1日及び12月1日を基準日として前6ヶ月間の勤務成績の評定を実施。
- 2 勤勉手当への勤務成績の反映状況
病気休職者等を除き成績率に差を設けず、一律の支給を行った。なお、今後も勤務実績の反映方法については、継続して検討していく。

(2) 退職手当(平成27年4月1日現在)

名 取 市			国		
(支給率)	自己都合	応募認定・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	20.445月	25.55625月	勤続20年	20.445月	25.55625月
勤続25年	29.145月	34.5825月	勤続25年	29.145月	34.5825月
勤続35年	41.325月	49.59月	勤続35年	41.325月	49.59月
最高限度額	49.59月	49.59月	最高限度額	49.59月	49.59月
その他の加算措置	定年前早期特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期特例措置 (2%~45%加算)	
(退職時特別昇給	無)	(退職時特別昇給	無)
1人当たり平均支給額	22,416 千円		1人当たり平均支給額	—	

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成26年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当(平成27年4月1日現在)

支給実績(平成26年度決算)		57,646 千円	
支給職員1人当たり平均支給額(平成26年度決算)		103,494 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)
東京都特別区	18 %	0 人	18 %
宮城県仙台市	6 %	2 人	6 %
宮城県 名取市・多賀城市 ・利府町・富谷町	3 %	607 人	3 %
地域手当補正後ラスパイレズ指数 (ラスパイレズ指数)		95.0 (95.0)	

(注) 地域手当補正後ラスパイレズ指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレズ指数。

(補正前のラスパイレズ指数×(1+当該団体の地域手当支給率) / (1+国の指定基準に基づく地域手当支給率) により算出。)

(4) 特殊勤務手当(平成27年4月1日現在)

支給実績(平成26年度決算)		6,976 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成26年度決算)		38,120 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(平成26年度)		32.9 %	
手当の種類(手当数)		5種類(15)	
特殊勤務手当の種類	支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
税務手当	第1種 従事職員	市税の滞納整理のための外勤業務	日額 300円
防疫業務手当	第1種 従事職員	感染症又は人体に感染症のある家畜伝染病が発生し、若しくは発生する恐れがある場合での感染症患者等の収容作業又は防疫業務	日額 800円
	第2種 従事職員	そ族昆虫駆除のための防疫薬剤等の調査又は散布作業	日額 500円
不快手当	第1種 従事職員	行路死亡人取扱業務	1件につき 2,000円
	第2種 従事職員	行路病人取扱業務	1件につき 1,000円
	第3種 従事職員	と畜等処理業務	1件につき 500円
外勤業務手当	第1種 従事職員	生活保護のための外勤業務	日額 200円
	第2種 従事職員	勤務時間外に用地交渉のための外勤業務	日額 500円
	第3種 従事職員	地籍調査等のための外勤業務	日額 200円
	第4種 従事職員	公営住宅使用料、下水道使用料及び受益者負担金等の滞納整理のための外勤業務	日額 300円
消防防災手当	第1種 従事職員	水火災防ぎょ(火災は放水した場合に限る。)活動	1回につき 300円
	第2種 従事職員	救助活動	1回につき 200円
	第3種 従事職員	救急業務(傷病者を搬送した場合に限る。)	1回につき $\left\{ \begin{array}{l} \cdot \text{市内} 200 \text{円} \\ \cdot \text{市外} 300 \text{円} \end{array} \right.$
	第4種 従事職員	消防吏員の深夜勤務	1回につき 500円
	第5種 従事職員	救急業務に従事し、救急救命士法施行規則(平成3年厚生省令第44号)第21条に規定する救急救命処置	1回につき 1,000円

(5) 時間外勤務手当

支給実績(平成26年度決算)	165,814 千円
職員1人当たり平均支給年額(平成26年度決算)	336 千円
支給実績(平成25年度決算)	153,255 千円
職員1人当たり平均支給年額(平成25年度決算)	312 千円

(注) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(平成26年度)」及び「支給実績(平成25年度)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(6) その他の手当(平成27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(26年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算)
扶養手当	配偶者 13,000円 配偶者以外の扶養親族 ・1人目 配偶者がいる場合 6,500円 配偶者がいない場合 11,000円 ・その他 1人につき6,500円加算 ・扶養親族である子のうち満16歳の年度始めから満22歳の年度末までの子1人につき5,000円加算	同じ	—	48,033千円	202,671円
住居手当	1 借家、借間に居住している職員 ア 月額23,000円以下の家賃を支払っている職員・・・家賃-12,000円 イ 月額23,000円を超える家賃を支払っている職員・・・11,000円+(家賃-23,000円)/2	同じ	—	27,117千円	251,083円
通勤手当	交通機関利用者の支給限度・・・月55,000円 交通用具の利用者 ア 普通自動車以外 ・・・使用距離により2,000円～31,600円 イ 普通自動車 ・・・使用距離により2,400円～27,800円	異なる	交通機関利用者の支給限度 ・・・月55,000円 交通用具の利用者 ・・・使用距離により2,000円～31,600円	27,775千円	61,044円
単身赴任手当	やむを得ない事情により、同居していた配偶者と別居することとなった職員 月額23,000円+(規則により最高45,000円)	同じ	—	—	—
管理職手当	管理、監督の地位にある職員のうち、次の職員 会計管理者、消防長、部長、社会福祉事務所長、議会事務局長・・・88,500円 理事・・・77,400円 部次長・・・72,700円 課長、工事検査監、保健センター所長、事務局長、消防署長・・・62,300円 参事、技術参事、指導主事・・・51,900円 場長、所長(出張所除く)、館長、園長、事務長・・・49,600円(4級の事務長は46,300円)	同じ	—	44,961千円	737,066円
管理職員特別勤務手当	ア 臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した管理職手当の支給を受ける職員 支給額は役職名に応じて5,000円～8,000円 ただし、勤務に従事した時間が6時間を超える場合は上記の額に100/150を乗じて得た額 イ 災害への対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時までの間であって正規の勤務時間以外の時間に勤務した管理職手当の支給を受ける職員 支給額は役職名に応じて2,500円～4,000円	同じ	—	68千円	7556円

夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時から翌日の午前5時までの間に勤務する職員 $\frac{(\text{給料の月額} + \text{地域手当}) \times 12}{1\text{週間の勤務時間}40 \times 52} \times \frac{25}{100}$ × 深夜勤務時間数	同じ	—	7,752千円	102,000円												
休日勤務手当	休日(祝日、年末年始)に正規の勤務時間中に正規の勤務時間中に勤務することを命ぜられた職員 $\frac{(\text{給料の月額} + \text{地域手当}) \times 12}{1\text{週間の勤務時間}40 \times 52} \times \frac{135}{100}$ × 正規の勤務時間中に勤務した全時間数	同じ	—	29,743千円	184,739円												
宿日直勤務手当	宿直勤務又は日直勤務を命ぜられた職員 1回につき 4,200円	同じ	—	0千円	0円												
災害派遣手当	災害応急対策又は災害復旧のため国又は他地方公共団体から派遣された職員が住所又は居所を離れて本市の区域に滞在する場合 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>滞在了期間\施設の利用</td> <td>公用の施設又はこれに準ずる施設(1日につき)</td> <td>その他の施設(1日につき)</td> </tr> <tr> <td>30日以内の期間</td> <td>3,970円</td> <td>6,620円</td> </tr> <tr> <td>30日を超え、60日以内の期間</td> <td>3,970円</td> <td>5,870円</td> </tr> <tr> <td>60日を超える期間</td> <td>3,970円</td> <td>5,140円</td> </tr> </table>	滞在了期間\施設の利用	公用の施設又はこれに準ずる施設(1日につき)	その他の施設(1日につき)	30日以内の期間	3,970円	6,620円	30日を超え、60日以内の期間	3,970円	5,870円	60日を超える期間	3,970円	5,140円	同じ	—	35,281千円	766,978円
滞在了期間\施設の利用	公用の施設又はこれに準ずる施設(1日につき)	その他の施設(1日につき)															
30日以内の期間	3,970円	6,620円															
30日を超え、60日以内の期間	3,970円	5,870円															
60日を超える期間	3,970円	5,140円															
寒冷地手当	平成16年10月29日から引き続き旧寒冷地に在勤する職員に対し、11月から3月まで各月支給 ※ 平成21年度以降、支給対象者なし。	同じ	—	—	—												

(注) 管理職手当の()内は、減額措置を行う前の額であり、平成15年度から減額をしている。

6 特別職の報酬等の状況(平成27年4月1日現在)

区分		給料月額等	
給料	市長	975,000円	(参考) 類似団体における最高/最低額 989,000円 / 730,000円
	副市長	788,000円	805,000円 / 648,000円
報酬	議長	504,000円	621,000円 / 400,000円
	副議長	420,000円	571,500円 / 350,000円
	議員	395,000円	540,000円 / 320,000円
期末手当	市長 副市長	(26年度支給割合) 3.10月分	
	議長 副議長 議員	(26年度支給割合) 3.10月分	
退職手当	市長	(算定方式) 給料月額×在職月数×0.44	(1期の手当額) 20,592,000円 (支給時期) 任期毎
	副市長	給料月額×在職月数×0.26	9,834,240円 任期毎
	備考		

(注) 1 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

7 職員数の状況

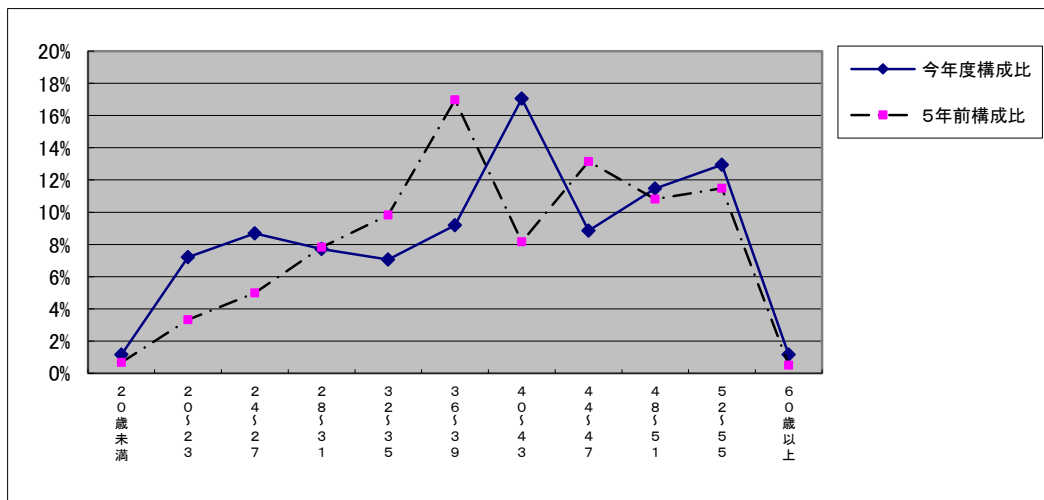
(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在)

部 門	区 分	職 員 数		対 前 年 数 増 減	主 な 増 減 理 由	
		平成26年	平成27年			
普通会計部門	一般行政部門	議 会	6人	6人	0人	震災復興に係る派遣職員業務等の増等
		総 務	92人	94人	2人	
		税 務	26人	27人	1人	
		労 働	0人	0人	0人	
		農林水産	21人	22人	1人	
		商 工	8人	7人	△ 1人	
		土 木	58人	59人	1人	
		民 生	109人	114人	5人	
	衛 生	32人	33人	1人	公民館引き揚げ労務職員の配置転換等	
	計	352人	362人	10人	〈参考〉人口1万人当たり職員数 46.94人 (類似団体の人口1万人当たり職員数50.47人)	
	教 育	98人	90人	△ 8人	公民館からの労務職の引き揚げによる減 欠員不補充による減	
	消 防	95人	93人	△ 2人		
	小 計	545人	545人	0人	〈参考〉人口1万人当たり職員数 70.67人 (類似団体の人口1万人当たり職員数66.85人)	
公営企業等	水 道	20人	21人	1人		
	下 水 道	13人	13人	0人		
	そ の 他	31人	30人	△ 1人		
	小 計	64人	64人	0人		
合 計		609人 [699人]	609人 [704人]	0人 [5人]	〈参考〉人口1万人当たり職員数 78.96人	

- (注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。
2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況(平成27年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	7人	44人	53人	47人	43人	56人	104人	54人	70人	79人	46人	7人	610人

(3) 職員数の推移

(単位:人)

部 門 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	過去5年間の増減数(率)
一般行政	318	344	341	360	352	362	44 (13.8%)
教育	134	121	106	99	98	90	△ 44 (△32.8%)
消防	93	92	93	91	95	93	0 (0.0%)
普通会計	545	557	540	550	545	545	0 (0%)
公営企業等会計	56	52	55	58	64	64	8 (14.3%)
計	601	609	595	608	609	609	8 (1.3%)

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。

8 公営企業職員の状況

(1) 水道事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は実質収支	職員給与費 B	総費用に占める職員給与費比率 B/A	(参考) 25年度の総費用に占める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
26年度	1,830,964	541,261	144,218	7.9	7.8

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり給与費 B/A	(参考)類似団体平均一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
	人	千円	千円	千円	千円	千円	千円
26年度	23	82,118	8,126	29,856	120,100	5,222	6,219

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は平成27年3月31日現在の人数である。

② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況(平成27年4月1日現在)

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
名取市	40.9 歳	316,141円	435,145円
団体平均	44.9 歳	348,021円	517,229円
事業者	—	—	—

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

名 取 市		水道事業(団体平均)	
1人当たり平均支給額(平成26年度) 1,423 千円		1人当たり平均支給額(平成26年度) 1,484 千円	
(平成26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.50 月分 (1.45) 月分 (0.70) 月分		(平成26年度支給割合) 期末手当 — 月分 勤勉手当 — 月分 (—) 月分 (—) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 (役職加算) 5~15 % (管理職加算) 0 %		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 —	

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当(平成27年4月1日)

名 取 市			水道事業(団体平均)		
(支給率)	自己都合	応募認定・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	20.445月	25.55625月	勤続20年	月	月
勤続25年	29.145月	34.5825月	勤続25年	月	月
勤続35年	41.325月	49.59月	勤続35年	月	月
最高限度額	49.59月	49.59月	最高限度額	月	月
その他の加算措置	定年前早期特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期特例措置	
退職時特別昇給	無		退職時特別昇給		
1人当たり平均支給額	- 千円		1人当たり平均支給額	15,286 千円	

(注) 1 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成26年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。
2 個人情報保護の観点から、該当者が3名以下の場合には非公開としています。

ウ 地域手当(平成27年4月1日現在)

支給実績(平成26年度決算)		2,412 千円	
支給職員1人当たり平均支給額(平成26年度決算)		109,636 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)
東京都特別区	18 %	人	18 %
宮城県仙台市	6 %	人	6 %
宮城県 名取市・多賀城市 ・利府町・富谷町	3 %	24 人	3 %

エ 特殊勤務手当(平成27年4月1日)

支給実績(平成26年度決算)		38 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成26年度決算)		2,915 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(平成26年度)		54.2 %	
手当の種類(手当数)		1種類(2)	
特殊勤務手当の種類	支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
水道業務手当	第1種 従事職員	料金の滞納整理のため外勤業務	日 額 300円
	第2種 従事職員	勤務時間外に事故発生のため緊急に勤務を命ぜられた場合の業務	1回につき 700円

オ 時間外勤務手当

支給実績(平成26年度決算)	4,704千円
職員1人当たり平均支給年額(平成26年度決算)	219千円
支給実績(平成25年度決算)	5,252千円
職員1人当たり平均支給年額(平成25年度決算)	246千円

- (注) 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。
 2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(平成26年度)」及び「支給実績(平成25年度)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

カ その他の手当 (平成27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績(26年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算)
扶養手当	配偶者 13,000円 配偶者以外の扶養親族 ・1人目 配偶者がいる場合 6,500円 配偶者がいない場合 11,000円 ・その他 1人につき6,500円加算 ・扶養親族である子のうち満16歳の年度始めから満22歳の年度末までの子1人につき5,000円加算	同じ	—	1,800千円	257,143円
住居手当	1 借家、借間に居住している職員 ア 月額23,000円以下の家賃を支払っている職員・・・家賃-12,000円 イ 月額23,000円を超える家賃を支払っている職員・・・11,000円+(家賃-23,000円)/2	同じ	—	1,296千円	324,000円
通勤手当	交通機関利用者の支給限度・・・月55,000円 交通用具の利用者 ア 普通自動車以外 ・・・使用距離により2,000円～31,600円 イ 普通自動車 ・・・使用距離により2,400円～27,800円	同じ	—	1,394千円	63,364円
単身赴任手当	やむを得ない事情により、同居していた配偶者と別居することとなった職員 月額23,000円+(規則により最高45,000円)	同じ	—	—	—
管理職手当	管理、監督の地位にある職員のうち、次の職員 会計管理者、消防長、部長、社会福祉事務所長、議会事務局長・・・88,500円 理事・・・77,400円 部次長・・・72,700円 課長、工事検査監、保健センター所長、事務局長、消防署長・・・62,300円 参事、技術参事、指導主事・・・51,900円 場長、所長(出張所除く)、館長、園長、事務長・・・49,600円(4級の事務長は46,300円)	同じ	—	748千円	747,600円

管理職員特別勤務手当	ア 臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した管理職手当の支給を受ける職員 支給額は役職名に応じて5,000円～8,000円 ただし、勤務に従事した時間が6時間を超える場合は上記の額に100/150を乗じて得た額 イ 災害への対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時までの間であって正規の勤務時間以外の時間に勤務した管理職手当の支給を受ける職員 支給額は役職名に応じて2,500円～4,000円	同じ	—	—	—
夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時から翌日の午前5時までの間に勤務する職員 $\frac{(\text{給料の月額} + \text{地域手当}) \times 12}{1 \text{ 週間の勤務時間} 40 \times 52} \times \frac{25}{100}$ × 深夜勤務時間数	同じ	—	—	—
休日勤務手当	休日(祝日、年末年始)に正規の勤務時間中に正規の勤務時間中に勤務することを命ぜられた職員 $\frac{(\text{給料の月額} + \text{地域手当}) \times 12}{1 \text{ 週間の勤務時間} 40 \times 52} \times \frac{135}{100}$ × 正規の勤務時間中に勤務した全時間数	同じ	—	11千円	5,500円
宿日直勤務手当	宿直勤務又は日直勤務を命ぜられた職員 1回につき 4,200円	同じ	—	—	—
寒冷地手当	平成16年10月29日から引き続き旧寒冷地に在勤する職員に対し、11月から3月まで毎月支給 ※ 平成21年度以降、支給対象者なし。	同じ	—	—	—

(注) 管理職手当の()内は、減額措置を行う前の額であり、平成15年度から減額をしている。